

αCD、3つの機序で機能

血糖値の上昇抑制に

シクロケムが発表

αシクロデキストリン(αCD)を原材料供給するシクロケム(神戸市中央区)は、αCDが3つのメカニズムで血糖値上昇抑制に働く可能性があると昨年12月に発表した。千葉大学らの研究により、αCDが新たに、

血糖値をコントロールする消化管ホルモン「GLP-1」に作用すると見出されたことを受けてのもの。また、GLP-1は膵臓のほか、胃や肝臓、腎臓にも作用して健康増進に働きかける可能性のあることから、同社ではαCDが多様な機能性を持つと示唆している。

千葉大らの試験はマウスを対象に実施したものの。マウスにブドウ糖を経口投与した後、αCDを与え血糖値上昇抑制機能のメカニズムを検証した。その結果、αCDは摂取量依存的にGLP-1の分泌を増加させた。GLP-1は血糖値を

低下させるホルモン「インスリン」の分泌を促す一方、血糖値を上げるホルモン「グルカゴン」の分泌を抑制する。千葉大らの試験結果から、シクロケムは「αCDがGLP-1を介して血糖値上昇を抑制する」としている。

このほか、αCDはこれまで、小腸でデンプン分解酵素と砂糖分解酵素の阻害、肝臓での糖新生抑制の働きが見出されている。シクロケムでは、これら3つのメカニズムにより、αCDが血糖値に対し機能すると示している。